

# 『川辺かるた』を核にした 学校教育・生涯学習コラボ活動の推進

川辺町教育委員会・教育支援課

## 1 川辺かるた作成

人口1万人強、面積41km<sup>2</sup>。濃尾平野の北端に位置するコンパクトな町。町の中央を貫流する飛騨川は堰き止められてダム湖となる。ダム湖を活かした全国屈指のボート場を有する川辺町。3こども園・3小学校・1中学校が連携を深め保育・教育にあたっている。

川辺町は平成28年に合併60周年を迎えた。「温め続けた川辺かるたを創るのはこの時ぞ」と川辺かるた作成事業をスタート。川辺の歴史・文化・伝統・行事・自然・風景・人物・夢・食などをいろは順で詠み込み、「これまでも、これからも、このまちがすき」とのコンセプトで広く町民から詠み句を募集した。幼児（2歳）から高齢者（92歳）まで人口の1割以上にあたる句が集まり、各種団体代表者による作製委員会で選考。絵札は町在住の画家に、箱題字は町にて開講の現代書講座講師に依頼して完成した。

## 2 かるた作成を通して見つめたこと

かるた作成段階においても、完成後も『かわべ不思議発見』『ふるさと歴史発見』『わが町麗し発見』があった。コンパクトなわが町を、知っているようで知らないことの方がいかに多いことか。正に発見の連続であった。

例えば町内には九つの古墳が発見されている。飛騨川の河岸段丘に開けた川辺の地は比較的温暖で、食料と水を得やすく、災害も少なかったのでは。それが今に受け継がれてきたと『不思議発見』に至る。川辺中学校で所蔵されているふくよかな朱色の土器は、卑弥呼の時代のもの。考古学的にも非常に値打ちがあるとお墨付きをもらう。綱場で栄えた町には、すばらしい観音様がおわして『歴史発見』。

川辺音頭に歌われ、誰もが知っている「米田富士から昇った朝日」は「幕引山に夕日」となって、白い雲を染めていく。紅白のコントラストの美を、古の人々も眺めていたことであろう・・・祈りを込め、手を合わせていたことであろう・・・と考えが広がると、川辺町に推理とロマンが満ちてくる。

四季折々の風情を見せるダム湖のほたりも併せて『麗し発見』。『不思議』『歴史』『麗し』を合わせて『川辺ふるさと発見』に至る。

歴史や風景や文化などを読み込み作成した川辺かるたを核に、「これまでも、これからも、このまちが好き」につなげる実践の一端を紹介する。

## 3 点から線へ 面へ・空間へ 社会教育委員・文化財保護審議会委員とのコラボ

エネルギーを費やして作成した「川辺かるた」。完成がゴールではなく、あくまでも出発点。利活用して、まきこんで、つなげて、点から線に、線から面に、面から立体へ仕上げていくことを教育委員会として目論んだ。翌年（平成29年）第1回川辺かるた町民大会を開催。2月開催のため寒さに加えてインフルエンザの流行やPR不足もあり参加チームは両手に余るほどであった。かるた作成委員の中には、校長会・教育委員・社会教育委員・文化協会・民生児童委員・文化財保護審議会委員の代表が加わっており、思いは軌を一にしていた。第1回の現状を知った彼らのうち「社会教育委員」「文化財保護審議会委員」から、両者がコラボして開催・実施しようとの声があがった。

- 1 各団体でも川辺かるたのPRに努めること
- 2 他の行事に連動して川辺かるた大会を開催すること
- 3 川辺かるたゆかりの地巡りツアーを実施すること

それぞれに委員会が開かれ次のように具体化されていった。

### <川辺かるた大会>

- 1 第2回川辺かるた大会は11月の公民館まつり（まなびピア）に合わせて開催する。
- 2 第3回川辺かるた大会は2月に社会福祉施設「やすらぎの家」の大和室で開催する。
- 3 両大会ともに賞状に加えて参加賞を含めて賞品を用意する。
- 4 準備、用意、読み手、審判、集計は両委員で分担する。 → 就学前チーム、小中チーム、一般チーム、家族チームの参加があり大いに盛り上がった。



### <川辺かるたゆかりの地巡りツアー>



- 1 心浮き立つ早春に実施しよう。（3月23日）
- 2 社会教育委員は受付・案内・広報を受け持つ。
- 3 文化財保護審議会委員は各地で事物を紹介説明する。
- 4 ふるさと愛好会や各寺社見守り会の支援を得る。
- 5 町報やケーブルネットTVで積極的に広報してもらおうべく取材や放映の協力を得る。

→ 町福祉バスと公用車利用により定員 30 人、参加料

500 円（弁当・保険料）で募集したところすぐに一杯になる盛況であった。親子での参加もあった。

第2回は（10月27日）に開催。定員 50 人、参加料 600 円で募集。同様大盛況であった。

## 4 成果と課題

それぞれに活動している社会教育委員（会）と文化財保護審議会委員（会）が、川辺かるたを接着力にして合同に会合を持ち、動きを共にすることは初めての試みであった。成果として

- 「歩く」「動く」「考える」「手を繋ぐ」ことにより、互いの職務内容の理解と自然なる連携が図られた。（なぜこのことに気が付かなかったか！）
- 社会教育委員としての活動を参加者に観てもらふことにより「内から」「外から」存在意義や職務内容を広く理解してもらふことができた。（自信と誇り）
- 文化財保護審議会委員も参加し現場での詳しいガイドにより、歴史や経緯・特色等知ることができた。（自信と誇り）
- ふるさと愛好会、お堂見守り会、読書サークル等地域や社会教育関連団体との連携が広がった。
- めぐる会ツアーでは事前の訪問依頼に応じて、特別な時にしか開帳されない秘仏や文物を数多く公開していただいた。
- ふるさとに長く住まっても歴史や名所を初めて知った方も多く認識が広がった。

### 課題として

- ▼大好評の声に加えて、ケーブルネットTV放映を見て「次回は参加したい」との声も数多く寄せられた。募集枠の拡大、予算化等を更に検討する。
- ▼毎年、小学校新入生には川辺かるたを入学祝として贈呈すると共に、こども園や学校、放課後児童クラブ、児童館、福祉施設等での利用も盛んになってきたが、まだまだ川辺かるたが周知されておらずアイデアを凝らし新たなコラボを見出して一層の普及に取り組んでいく。